

Abstract

オバマ外交とはなんだったのか

中山俊宏（慶應義塾大学総合政策学部教授）

オバマ外交の評価はまだ定まっていない。オバマ外交は、少なくとも理念上は、「あるべきアメリカ外交のかたち」の輪郭を定め、外部環境への反応という隘路から抜け出し、アメリカ外交にとっての優先順位の再定義を試みたものだった。それは、9.11テロ攻撃への過剰反応に特徴づけられたジョージ・W・ブッシュ政権期の対外政策へのアンチテーゼであると同時に、変わっていく世界にアメリカを適応させようと試みたものだった。その結果、オバマ外交は、アメリカン・パワーを使って何かを実現することよりも、無駄なことはやらないという方向に傾斜し、アメリカを実態以上に弱く見せてしまうという致命的な過ちを犯してしまった。オバマ外交の選択が個々の局面では正しかった場合でも、このことがオバマ外交を大きく制約し、その世界認識をうまく政策として展開していくことを難しくしたといえよう。

『国際安全保障』第45巻第1号（2017年6月）1-8ページ。